

ようやくパンデミック、新型コロナ・ウイルスも〈ワクチン〉とマスク、アルコール消毒のおかげで沈静化しつつあります。それは、今のうちかも知れません。

私が、大工専に在学していた時には、国際社会にパンデミックのような社会不安はありませんでした。勿論、学習とアルバイトで睡眠不足の毎日でしたが、楽しかった思い出ばかりです。その主な理由になるのが、

- A、やりたい事ができていた。
- B、友人たちとの人間関係が楽しかった。
- C、お金の都合が上手く解決できていた。

以上、3つの条件がそろっていたからです。現在、パンデミックの影響によって、アルバイトで学費を支払う事ができずC、の条件を満たす事ができないまま、中途退学される学生の方々が、たくさんいるようです。

私はこれまで、そのような事を気にすることはありませんでした。しかし、災害や戦火によって若い人々が〈学び〉から去ってゆく悲劇は、昔から世界中で起こっていた事に気づいたのです。

例えば、日本の戦国時代はどうでしょう？村人は農作物を育てながら、大名同士の合戦にも従軍したようです。戦国時代の村人と、江戸時代の村人を比較すると、年間スケジュールに大きな違いがあると思います。江戸時代、村人は一揆を起こしても、大名同士の合戦はありませんでした。

少なくとも、教科書で習うような大名同士の合戦はありません。つまり、村人は自分たちの理由だけで戦う事ができたのです。

しかし、こんな昔話では、困っている若い学生の方々を助ける事はできません。在学生の皆さんが卒業できるように、日本国政府、あるいは知事による政治的配慮によって、学習の援助を行って頂きたいと願います。

さて、まもなく師走、よりも、クリスマスを迎えます。G o o dなクリスマスにして下さい！

今回は夜の建築物をご紹介させていただきます。夜の建築物に照明設備は不可欠ですが、それは電気の供給が安定してからの事ではないでしょうか？イヤなお話ですが、戦時中だとアメリカ軍の爆撃が恐くて、照明器具から発せられる光束が屋外にもれないようにしていたとか。

今は〈t e a m L a b〉のA r tに感動するばかりです。注目しています！

まずは、大阪大学グローバルビレッジのエントランスホールです。夜の建築撮影は、しっかりと防寒して下さい。



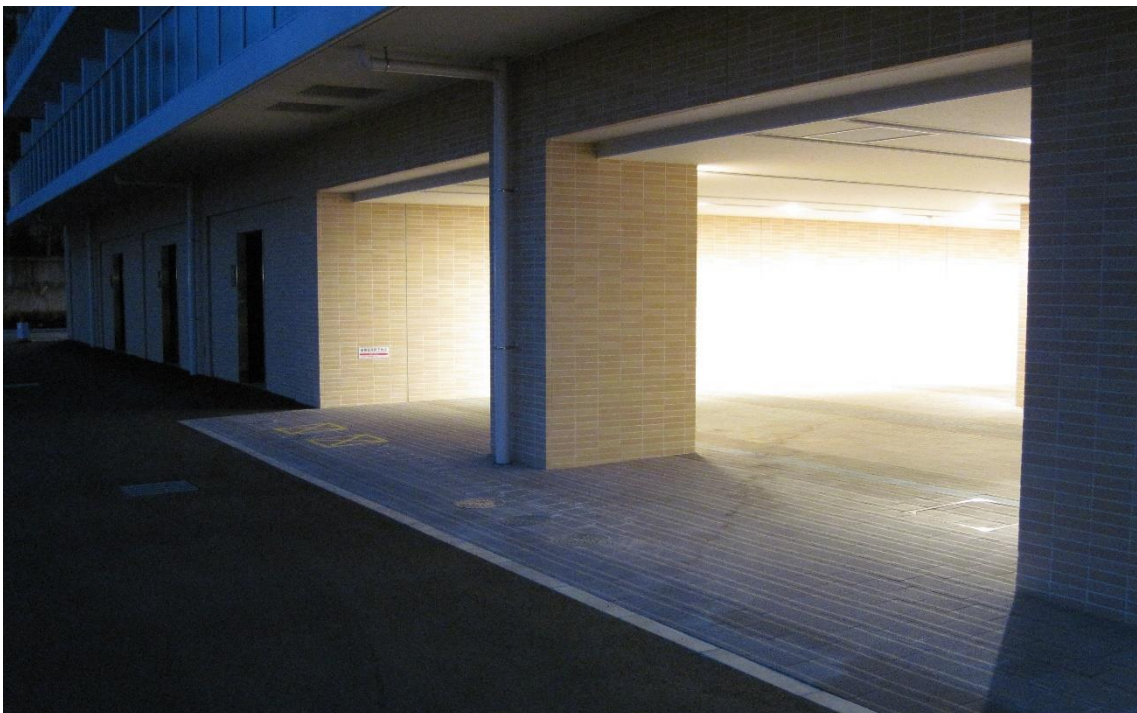
大阪大学グローバルビレッジは阪急山田駅・大阪モノレール山田駅が最寄り駅です。徒歩5分程度です。

今回の太陽光の無い、夜の撮影は、なかなか思うようにできませんでした。夜の撮影を専門に活動している写真家はいるのでしょうか？

同じような時間、同じような気象状態で撮影しても、同じような画像データになりません…。次の3枚は別の日に撮影しました。



夜をDesignする照明設備ですが、照明設備も探し始めると、思考に歯止めがかかりません。頭の中が、電気の配線のようになってきます。とにかく、キレイな夜景が見える場所は、1人で眺めても〈必殺技〉ですので教えたくないです。よね？







タイル・ブロックの目地や、僅かな凹凸でも反射率が変化するため照明による陰影が変化します。僕は、大工専在学中は石材が好きでした。真夏に触っても「ひんやり」するからです。

石材というと日本史では墓石・石仏・石碑・城の石垣を I m a g e しますが、ヨーロッパ・海外には美しい組積造の建築物がたくさんありますね。これから建築の歴史も〈計画〉〈構造〉〈材料〉に分類して学習したいです。

次は、千里バードツリーです。最寄り駅は阪急南千里駅です。徒歩10分程度です。



では、冬の日クラシカルな建築短歌三十一文字詠ませていただきます。

～ まぶしけり 水都に學べ あげひばり

土と交わる わが身は紅葉 ～